

令和5年度 第3回「甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会」議事録要旨

日 時 令和6年2月8日（木） 13時30分～15時00分

場 所 甲府市役所本庁舎4階 大会議室

出席委員 西久保浩二委員長、田中由美副委員長、飯島司委員、今井裕久委員
河野嘉孝委員、河野善謹委員、内藤恵一委員、濱田哲一委員、
豊前貴子委員、向山孝明委員、村松晴己委員

事務局 山本産業部長、近藤商工観光室長、萩原商工課長、浅川雇用創生課長、
佐野人権男女参画課長、矢崎商工課課長補佐、市川商工課主事

次 第

甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会

1 開会

2 委員等紹介

3 議事

(1) 前回の委員会での確認事項について

(2) 甲府市商工業振興行動計画

ア 「人材の育成及び確保」について

(3) その他

4 閉会

3 議 事

(1) 前回の委員会での確認事項について

事務局より、資料1『令和5年度 甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会
「人材の育成及び確保」』、資料2「甲府市商工業振興行動計画の体系図」、資料3
「施策の柱Ⅶ ウィズコロナ等への対応」に基づき、説明。

○委員からの意見等

(委員長) 事務局から、前回議論した内容について、現在の実態や今後の対応についてご説明いただいたが、意見を伺いたいと思う。

(委員) 資料3の「がんばろう甲府！プレミアム付商品券」について、登録したものについては今回で終わりなのか、今後デジタル化の推進で活用していくのか。

(事務局) 今回登録したものについては、この事業でのみ使うものとなっている。委員の言うように広く活用ということは、まだ考えていない。

(委員) かなり苦勞をして登録したので、もったいないと感じる。

(事務局) 国でもデジタル化は推進しているが、次に具体的に何かに活用することは考えておらず、現状はデジタルの操作に慣れていただくことを目的としている。

(委員) 3番目のものづくり体験教室への支援について、補助していただけるのはありがたいが、市内の小学校・中学校の生徒の企業見学を受け入れられるような体制づくりをしてもらいたい。人材不足の世の中で、甲府市にこんなにもいい企業があるということを知ってもらい、山梨に定着してもらうようにしてもらいたい。補助もありがたいのだが、もっとそういったことに力を入れてもらえれば、我々も協力したいと思う。

中小企業が今何をしているのか、何を取り組んでいるかを直接学生たちに教えられる場を作ってもらえるとありがたい。

(事務局) こちらでも彫刻組合、宝石のまち甲府会議などの宝飾関係の事業者のご協力をいただき公民館で講座を開いた際も大変盛況だったと聞いているので、今後の参考にさせていただきたい。

(委員) 逆に生徒の皆様が企業に来てもらうところもやってもらいたい。

(委員) 中学生が職場体験で企業に来ていると思うが、全生徒がやっているのか。自分の企業にも来たことがあるが、とてもいいと思っている。

現在は3年間に1回しかないが、毎学年実施できれば、少なくとも3社には行くことができるので、そのようにできればよりよいのではないかと。

(委員長) 高校の進学先を決める関係で中学生くらいがちょうどいいのではないかと。小学生だと少し遠いような感じがする。

中学生の職場体験については、甲府市が主催で実施しているものなのか。

(事務局) 詳細は不明だが、中学生については、学校単位で取り組まれていることだと思う。今後の事業の参考にしたいと思う。

(事務局) 委員の方からいただいた意見で、教育委員会の方で行っており、夏休みの職場体験で中学2年生がマストで実施をしているものだったと記憶している。今後、教育委員会とも連携し、今回いただいた意見を共有し、来年度に向けて準備を進めていきたいと思う。

(委員) 資料3のプレミアム付商品券について、使えるお店には旗が立っていると思うが、以前の飲食店向けのキャンペーンに比べると使えるお店が少ないのではないかと感じる。

また、デジタルと紙で2種類あり、それぞれのニーズに答える形で行っていて、今回は申込をして、購入をして、そしてその口数に上限があるということで、前回は買いたい人がいくらでも買える形だったと思うが、今回の事業について、市としての目標は達成でき

ているのか。

満遍なく多くの人を買えるようにしたのだと思うが、お店が少ないような印象を受ける。

(事務局) 前回というのは山梨県で実施されたものかと思うが、その際は参加できるのは飲食店のみであった。

今回は小売業やサービス業も対象としており、1,240店舗が参加をしている。市としては、1,000店舗以上の参加を目標としており、店舗数に関しては目標を達成している。

また、限りある予算の中で実施をしている関係で冊数や口数に上限を設けている。他市の状況も見ながら、希望する方が公平に購入できるような制度設計となっている。

(委員) 買いたい人が全員購入できたのか。

(事務局) 今回、申込数が予算の範囲内で収まっているため、買いたい人が購入できたという形となる。

(委員長) デジタルを利用した人の年齢層や地域差を分析することで、デジタル関連の施策のやりやすさが検証できると思う。

(事務局) 年齢層や地域差、また、どういった消費の傾向があったかについては、事業の終了に併せて分析をしていく。ユーザーにも店舗にもアンケートを実施して、検証結果をもらい、分析をしていきたいと思う。

(委員長) 委員会でも分析結果を共有していただきたい。

(事務局) 是非、報告させていただきたいと思う。

(委員) 商工会議所にも問い合わせや苦情が来ている。最初のころは、使い方が分からないとか、追加販売のときは購入できないのはどうしてかという苦情が来ていた。

事務局を設けているとは思いますが、問い合わせ先を明確にしてほしい。

操作のサポート窓口を商工会議所で長期間実施したのは非常にいいことだと思うが、過去に山梨県で実施していたプレミアム食事券の窓口になっていたこともあり、勘違いをされる市民の方が非常に多いので、今後も同一の事業を行うようであれば、問い合わせ先を明確にしてほしい。

(事務局) 商工会議所では年末の10日間ほど、操作のサポート窓口を設け、1,000人近い人が利用された。場所の提供していただいたことには、とても感謝している。

しかし、終了後にも商工会議所に人が来てしまうことについては、個々にメールを送ることで周知をしていたところがあるが、行き届かない面があったのはご迷惑をおかけし、申し訳なかった。

今後、効果的な周知について、考えていきたいと思う。

(委員長) 事務局側は大変なところがあったとは思いますが、施策としては成功し、物価高騰対策になり、少しではあるかもしれないが商工振興になったのではないかと。

(委員) 使ってもらう側としてはとてもありがたいと喜んでいました。

(委員) ものづくり体験教室について、商工業を営む団体とあるが、それは法人を指すのか、組合を指すのかどちらか。

(事務局) 想定としては、1 個社ではなく、組合等の団体を対象としている。

(委員) 組合となると組合員の中でも事業に対する理解度が異なると思う。組合としてできないことを会社としてやりたいと思うが、それでは対象外ということか。

(事務局) 現状は団体を対象としているため、ご意見をもらう中で対象について検討していきたい。

(2) 甲府市商工業振興行動計画

ア「人材の育成及び確保」について

事務局より、資料 1『令和 5 年度 甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会「人材の育成及び確保」』、資料 2「甲府市商工業振興行動計画の体系図」に基づき、説明

○委員からの意見等

(委員長) 事務局から説明のあった内容についてご意見・質問をいただければと思う。

(副委員長) Can-Pass や Can-Pass Plus の利用者が融資を申し込めるのか。

(事務局) Can-Pass と融資は連動していないため、Can-Pass を利用した方が融資を受けているわけではない。

(副委員長) そこが繋がった方がいいのではないかと。

また、借りた方たちが借りただけでうまく運営していけるかはわからない。Can-Pass Plus に参加している人たちと交流を深めていくことで、連携していけばいいのではないかと。

融資を受けた 3 件の中にジュエリー関連の企業はあるかと。

(事務局) 3 件の中にはジュエリー関連の企業はなく、飲食やサービス業の方になる。

(委員長) Can-Pass Plus では「女性おうえん資金」の紹介はしているのか。せっかくな

ので、融資に繋がるといいと思う。

(事務局) Can-Pass Plus については、会計士の方をお招きし、実際に事業をどのように行っていけばいいのかを具体的に教えていただくセミナーになっていて、その中でも「女性おうえん資金」の紹介をしている。

(委員長) 事業計画を作る勉強をして、実践しようというときに融資を利用してもらうというタイムラグが少しあるということか。

(事務局) その通りである。

(委員) 「多様な就業機会の創出」について、外国人向けガイダンスはとても良いものだと思う。少子高齢化で日本語や日本の文化を理解した外国人が、県内の企業に就職して、海外展開をする際にジェトロで支援をさせていただいている。

この外国人向けガイダンスは、留学生などの高度な人材や工場などで働いている技能実習生どちらも対象としているのか。

(事務局) 今回の県央ネットやまなしにおいての外国人向けガイダンスは両方の人材にアプローチをしたが、特に「高度外国人材」については、県内で雇用が進んでいないところがある。いずれにしても、人材不足であることに変わりはないため、そういった方たちが活躍できる場を創出できるように取り組んでいきたいと考えている。

(委員) ジェトロでは「高度外国人材」に特化して、企業・大学と連携し、就職説明会や意見交換会をやっているので、意見交換会を実施して、お互いのイベントの日程が被らないように計画を立てたいと思う。実際に県とも行っているので、市とも行えればと思う。

(委員長) 大学にも留学生が増えてきているが、実際にこういった説明会があることを知らない留学生が多いように感じる。大学に来ていただくとか、キャリアセンターを通じて行うとかできれば。

(委員) 実際に支援している企業でも、大学で直接お話をしたいという方もいらっしゃるのでは、連携して、システムティックにできればと思う。

(委員長) 県内への就職希望者は多くいるが、日本流の就活の仕方が分からないようで先生たちも困っている。大学単位で実施できればよいのではないか。

(委員) 施策の柱Ⅳの就業希望するものへの多様な就業機会の創出について、マッチングイベントを行うのはよいかと思うが、もう少し踏み込んで行う方がいいのではないかと、例えば若者に向けてはSNSを活用したり、職場体験をしたりするのはどうか。

また、他市の施策だと若者地元就職支援金を創設しているところもある。

ワークプラザ甲府にも立ち寄ったが、シニア向けや外国人向けの窓口が明示されていなかったもので、明確にした方がいいと思う。

女性おうえん資金について、利用が少ないのではないかと。国では女性起業家を20%以上にするという目標を立てていたと思うので、女性の起業家を増やすためにはどうすればいいか考えなければならないと思う。

人生の早いうちから起業について意識をすることが必要ではないか。

起業イベントも実施されていると思うが、学生が参加できるものをもっと増やしていただきたい。

女性が考えた製品を世の中に送り込むことで、大きな意味があると思うので、起業する女性を増やしてほしい。

(委員) ワークプラザ甲府について、利用することへのメリットは何か。メリットをもっと周知していく方がいいのではないかと。

(事務局) ワークプラザ甲府が発足した経過としては、平成29年に市が行う福祉の相談とハローワークの行う就職相談を一体的に行う支援事業としてできたものになる。

当初は、生活保護者・生活困窮者向けの一体的な支援事業をしていたが、コロナの影響により、運営が厳しくなったことに伴い、令和3年から一般向けに開放をしている。

ベースは福祉施策の一環になっており、主に市役所に来庁した方、ハローワーク甲府は住吉にあるため南側の方向け、ワークプラザ甲府は北側にお住いの方向けとなっている。

(委員長) 求人情報は来ているのか。

(事務局) 求人情報の検索もでき、相談員も2名配置しているため、相談を受けることもできる。

(委員) 合同企業説明会について、実績をみると、参加企業は年々増えているが、参加者は横ばいになっている。県内外大学生への周知方法はどのように行っているのか。

(事務局) 大学生への周知については、県内大学はキャリアセンターを通じて、学内の学生にメールでの周知を依頼した。その他にもチラシやポスターを配布した。

県内の専門学校等についても、配布をしている。また、県外の大学については、ハローワークや大学に周知をし、そのほかにもSNSやHPを活用した周知を実施したところである。

(委員) いろいろと周知はされているということだったが、もう少し、特に県外の学生が山梨に戻ってくる機会を増やしていくことが、山梨県や甲府市にとってもいいと思うので、参加者増やしていくことを検討してほしい。

(委員長) 県外の学生もリモートで参加ということは可能だったのか。

(事務局) 7月の合同企業説明会については、対面での開催を基本としていた。

(委員長) 説明会のためだけに帰ってくるのはかなり大変だと思う。

(事務局) 3月にはオンラインでの合同企業説明会を実施し、対面への参加を促したいと考えている。

(委員) 直接県外に行ってもいいと思うが、予算的に難しいのか。

(事務局) 山梨県で東京にバスツアーを組んで行っているのですが、それとは別で甲府市ではリモートで行うこととしている。

(委員長) 県内出身で県外に出る学生は非常に多いので、そこをターゲットにするのはよいと思う。

(委員) JALの女性が働きやすい職場環境づくりのセミナーについて、参加された方もいらっしまったと思うが、女性だけでなく多様性について謳ったセミナーになっていて、グループワークや意見交換もあり、現状について考えることができた。JALの方は女性活用の制度と風土づくりの重要性について話をされていて、一つやるだけではなく、連帯感が必要だということを学ぶことができた。

管理職や経営者、異業種の方が多くいたが、話をした中で、まだまだ女性が活躍できる環境づくりが意識的に遅れているなど感じ、意識改革ができた。

もっと学びたいという方もいらっしまったので、引き続き管理職向けに意識改革をしていけばいいのではないかと思った。

(委員長) 事務局より、セミナーで人を集めることが難しいとのことで、募集の方法について意見をいただきたいとのこと。

今回は満員になったということだが、なかなか集めるのは難しいのか。

(事務局) 募集をしてもなかなか集まらない状況にある。

(委員長) 今回のセミナーは、人事や会社の経営者を通じて、女性の社員にという形なのか。

(事務局) 今回は、管理職として、女性活用についてどうしていけばいいのかをテーマにセミナーを講師の方にしていただいた。

(委員長) 多くの管理職の方に参加してもらい、働きやすい職場づくりについて考えることができたということか。

(事務局) それで間違いない。

(委員長) 今後も満員となるようにしていただければと思う。

(委員) 今後も継続してほしい。

(委員) 私も参加させていただいた。グループワークもあり、他の企業や団体の話を聞けることはとても有意義だった。

こういったテーマですでに実行に移しているのは、大企業が多く。中小・零細ではなかなか難しいと思うが、意見交換ができたことはとてもよかったと思う。

(委員) 私も参加させていただいて、グループワークがとてもよかった。今後も続けてほしい。

振り返りのテーマがとてもよく「あなたの会社でダイバーシティについて、取り組む理由について考えてください。」について考え、共有することができた。

他にも「女性が働きにくい職場とはどういったものか考えてください。」というものあり、経営者の方にイメージーションを働かせるものになっていた。

また、「風土や制度の面でどういったことを今後取り組みたいですか。」というのもあった。

是非、今後も継続してほしいと思った。

(委員長) 山梨大学で女性の就職活動支援員をやっているが、東京に行って説明会に行ったり、選考が進んでいたりする中で大企業の女性活躍やダイバーシティについてかなりかっこよくPRしているが、山梨の企業を見てみると昭和的な働き方していて、活躍できないのではないかという悪いイメージがある。

もっと県内の企業でも働きやすいことを知らしめていただき、県内志向の学生も多くいるので、雇用に繋げてほしい。

(2) その他

事務局より、こうふはっこうマルシェ 2024 の周知依頼と今後のスケジュールについて説明を行った。

(委員長) 以上で議事を終了します。ありがとうございました。

以 上